

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	1	人がいきいきと暮らすまちづくり	小施策 主管課等	環境企画課
施策	10	生活環境の保全	評価 責任者	池田 陽一 内線 8410
小施策	10-2	公害の防止	評価 シート 作成者	菅原 真理 内線 8411

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	⇒	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
本市の生活環境は、概ね良好な状況にあるが、身近な生活環境を良好に保ち続けるために、大気、水質、騒音、振動などの監視を継続して行い、公害発生を未然に防止する必要がある。		身近な生活環境が良好に保たれ、環境への負荷が取り除かれるように、大気、水質、騒音、振動などの環境監視を行い、公害を防止する。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	⇒	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
環境負荷 市民・事業者		有害物質の発生が抑制される 環境負荷が取り除かれる

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価				
				成果点	⇒	成果の要因分析		
指標①	大気	環境基準適合率(適合件数/測定件数)	単 位 %	目指す方向 ↗				
当初値 (H25)	98.8	R1目標値	100.0	R6目標値	100.0			
<p>・測定局2地点において年間を通じて大気汚染物質を測定しており、環境基準適合率が高い水準で推移している。</p> <p>・公害防止協定の煙突出口臭気濃度基準値超過によりクリーンセンターの排ガス基準値遵守継続日数は3,494日で途切れたものの、その他の大気汚染物質項目について基準超過は無かった。</p>					<p>・年間を通じて大気汚染物質の常時監視を継続しながら、ばい煙発生施設の立入検査を行うことにより、発生源に対する指導をしている。</p> <p>・越境汚染が環境基準超過の原因と考えられる項目はあるものの、自動車排ガス等技術革新による負荷軽減も図られている。</p>			
<p>・大気については、例年一部環境基準の超過(光化学オキシダント、微小粒子状物質PM2.5)がみられ、令和元年度も光化学オキシダントについて環境基準を超過した。</p>					<p>・光化学オキシダントについては全ての自治体で環境基準を達成しておらず、中国大陸からの越境汚染等、広域的な要因が考えられる。</p> <p>・令和元年度に長期基準を達成した微小粒子状物質(PM2.5)についても、複合的、広域的な要因で変動しているものと考えられる。</p>			
問題点					⇒		問題の要因分析	
指標②	水質	環境基準適合率(適合地点数/測定地点数)	単 位 %	目指す方向 ↗				
当初値 (H25)	98.1	R1目標値	100.0	R6目標値	100.0			
<p>・環境基準適合率が高い水準で推移している。</p>					<p>・公共用水域の水質検査を行うことで常時監視することや、特定事業場からの排水について立入検査を行うことにより、基準超過がみられた場合に速やかに対策を実施するよう指導している。</p>			
<p>・水質については、一部環境基準の超過(河川における溶存酸素量、浮遊物質、大腸菌群数、BOD、全亜鉛)がみられた。</p> <p>・年々水質の環境基準適合率が低下傾向にある。</p>					<p>・河川での基準超過は広域的で一時的なものであり、降雨や気温等の自然的要因によるものが大きいと考えられる。</p> <p>・大腸菌群数の基準超過の割合が年々増加傾向にある。水温や気温、水量の変化が要因と考えられる。</p>			
問題点					⇒		問題の要因分析	
指標③	騒音	環境基準適合率(適合地点数/測定地点数)	単 位 %	目指す方向 ↗				
当初値 (H25)	91.3	R1目標値	96.0	R6目標値	100.0			
<p>・環境基準適合率が高い水準で推移している。</p> <p>・騒音については、一般地域、道路に面する地域、高速交通沿線の騒音を測定しており、概ね良好な状況であった。</p> <p>・平成30年度から令和元年度において騒音の環境基準適合率が向上した。</p>					<p>・測定結果の公表・情報提供、及び測定結果を基に環境基準を遵守するよう申入れを継続して行っている。</p> <p>・一般環境騒音および自動車交通騒音に関して適合率が向上している。自動車の走行速度等の変化が要因となっていると考えられる。</p>			
<p>・令和元年度は前年度より環境基準適合率が向上したが、元年度目標値は達成されていない。</p>					<p>・主要道路の交通量や自動車の通過速度の上昇等の理由により環境基準を超過しているものと推測される。</p>			
問題点					⇒		問題の要因分析	

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	★…R2年度着手済または着手予定 ☆…R3年度以降の着手を検討
★ 同様の計測を継続し、常時監視・指導に努める。	
☆1 PM2.5の成分分析について、中核市等の取組状況の調査研究を継続していく。	
★ 同様の計測を継続し、常時監視・指導に努める。	
★ 同様の計測を継続していく。また、結果についてホームページ等での公表を継続し情報提供を行って注意喚起を図る。	

指標④ 振動の環境基準適合率(適合地点数/測定地点数)				単位	目指す方向	成果点	⇒	成果の要因分析
				%	→			
当初値 (H25)	100.0	R1目標値	100.0	R6目標値	100.0			
<ul style="list-style-type: none"> 環境基準適合率が高い水準で推移している。 振動については、一般地域、道路に面する地域、高速交通沿線の振動を測定しており、良好な状況であった。 							<ul style="list-style-type: none"> 測定結果の公表・情報提供、及び測定結果を基に環境基準を遵守するよう申入れを継続して行っている。 	
問題点								問題の要因分析
<ul style="list-style-type: none"> 特になし 							<ul style="list-style-type: none"> 特になし 	

★ 同様の計測を継続していく。